

2023 年 1 月 9 日

2022 年度 聖路加国際大学大学院 看護学研究科
課題研究

産痛緩和法を選択する女性への意思決定エイドの開発と評価

Development and Evaluation of a Decision Aid for Women Choosing Methods
of Pain Relief in Labor.

21MW009

高橋 莉抄

要旨

I. 研究目的

本研究は、妊産婦とその家族がバースプランに関して検討する際に産痛緩和法について情報を得て意思決定するプロセスを支援するためのツールである「産痛緩和法の選択を支援する意思決定エイド」を開発する。よって、文献検討を基盤に周産期分野および意思決定に関する研究者との間で議論を重ね、エイド試作版を開発すること、さらに更新プロセスとして表面妥当性と内容適切性を検討し、エイド完成版を作成することを目的とする。

II. 方法

研究デザインは、記述的研究である。はじめに、2022年5月31日までの期間で文献検索を行い、産痛緩和法の選択を支援する意思決定エイドの試作版を作成した。次に、産婦人科医師、助産師、出産経験のある女性(産後3年以内に経膣分娩にて出産)を対象に、質問紙にて試作版の表面妥当性と内容適切性についての回答を得た。質問紙の回答から得られた自由記載の意見は、2名の研究者でディスカッションし、類似性のある内容別にカテゴリとして抽出して分析した。最後に、質問紙で得られた意見を基に完成版を作成し、意思決定エイドの国際基準 IPDASi(Version4.0)と比較してエイド完成版の評価を実施した。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号: 22-A060)。

III. 結果

研究協力者は、産婦人科医師2名、助産師5名、出産経験のある女性5名(助産師と出産経験のある女性は3名が重複)の合計9名であった。試作版(A4判,全52頁)について、表面妥当性の評価項目である「デザイン、読みやすさ」と「理解のしやすさ、情報の量・バランス」についての評価については概ね肯定的な回答・意見が得られた。また、試作版の内容や内容適切性に関する具体的な意見は28件あり、《文章の追加・修正》、《図の修正》、《表現の修正》、《表の修正》、《疑問》、《構成》、《エイドの活用》の7つのカテゴリに分類された。これらの意見を検討し、試作版の内容の再検討と修正・加筆を行い、エイド完成版を作成した。エイド完成版を IPDASi(Version4.0)に基づいて評価した結果、資格基準6項目、認定基準6項目、質基準11項目を満たしていることが確認された。

IV. 結論

エイド試作版の表面妥当性と内容適切性を確認することができた。今後は、妊産婦および医療者を対象としたフィールドテストを行い、実際にエイドを使用する妊産婦および医療者の意見を反映し、本エイドのさらなる更新を実施していく必要があると考える。